

掛川市議会 日本共産党だより

2020.10.13
第14号



〈発行〉
掛川市議会
日本共産党
掛川市長谷 1-1-1
〈連絡先〉
勝川しほこ
・電話 22-1325
・FAX 22-3883
ご意見・ご要望をお寄せ下さい

自助・共助の強調より 暖かな公助をこそ！

9月定例会での
勝川議員の一般質問

掛川市ささえあい応援券・A券
掛川市ささえあい応援券・B券
(食品スーパー等使用不可)
【各B券が3枚入っています】

地域内でお金をまわし コロナ禍で苦しむ 市内業者支援を

◆勝川 市の事業が市内業者の仕事となるよう極力市内業者に発注する努力と職員に対する意識付けが必要。

◇市長 職員への意識付け、通達の徹底などははかる。できる限り市内業者を使えるようにしたい。弱い立場の人への支援を強めるスタンスで取り組む。

◆勝川 指定管理や民間委託となつていても公的事业である。コロナの影響把握とその対策は、職員ポータルシステムも聞くが、ちゃんと補填するべきでは。

◇市長 市も財政が大変であり、オール掛川、協働の理念でみんなで乗り越えていくしかない。

◇協働環境部長 収入が2〜4割となつているところもある。事業体にも努力もしていただくが、適切に今後も協議をして、必要があれば検討していく。

◆勝川 プレミアム付商品券「掛川ささえあい応援券」事業は地元中小企業を幅広く支援していく仕組みが工夫されている。今後、住宅リフォーム助成制度など中小企業応援となる既存の商品券事業も同様な形態に見直せないか。

◇経済産業部長 パートナーシップ買い物券事業については中小企業振興会議などで検討していく。

◆勝川 中小企業振興計画には「地域循環型社会」の考えを盛り込むべき。

◇経済産業部長 コロナのため計画の見直しを行なっている。実効性のあるものになるよう中小企業振興会議の中で話し合っていく。

◆勝川 地産地消の農産物を市民が安定的持続的に食べ続けるためにも、小規模の家族農業へも支援を。

◇経済産業部長 直売所13カ所への支援をしている。お茶を抜いた地産地消率は29%。食の輪を広げる消費形態だと考える。

◆勝川 地域電力会社「かけがわ報徳パワー株式会社」は、地域循環型経済推進の視点で

◇協働環境部長 市内発電の電力の消費を市内で行なうと共に、その利益は市内に還元していく。

地域内再生産力というものが、地域の底力になる。危機の時に発揮される地域力を市の政策としてつくりだして欲しい。市が後ろで支えてこそ「協働のまちづくり」に取り組みめるのでは、と強く思います。

救急車の不搬送時には その後への配慮を

◆勝川 一人暮らしや高齢者世帯にとつても、また、要支援者を抱える地域にとつても、緊急時の救急搬送は大切な命綱。増加する救急要請の中で、救急車の適正利用が求められるが、軽症と判断された場合など14%は救急車での中東遠総合医療センターへの搬送はされていない。軽症の判断には市民合意を

◇消防長 医療センターの救急医の判断を仰ぎ伝えて合意を得た場合には不搬送とする。

掛川市・救急搬送時不搬送者推移

年	救急出動件数	不搬送者数	割合
2015	3782件	305人	8%
2016	3829件	321人	8%
2017	3926件	366人	9%
2018	4207件	400人	10%
2019	4145件	575人	14%



◆勝川 本人に認知機能の低下があつたり、一人暮らし、施設入所者等家族が身近にいない、また身体機能が低下して搬送自体がむずかしいケースなど不搬送とする場合でも、その後の安心できる医療へのつなぎ方の工夫が必要では

◇消防長 病院に運ぶのが困難であれば車に乗せるお手伝いをし、病院にも一報入れてお願いするなどしていく。

医療にちゃんとつながったかは救急隊員も心配なはず。不搬送後に医療機関につながるようメモを残すといった安心できる対処法を検討してほしいと思う。

ゴミの減量化を SDGsの理念のもと 市民の意識改革で

◆勝川 剪定枝や刈り草、落ち葉を燃やさず、堆肥やチップとして活用は

◇協働環境部長 自治区で直接業者に搬入したりもしている。検討する。



燃やさず堆肥化を検討してほしい落ち葉

◆勝川 古紙や古着もリユース・リサイクルに

◇協働環境部長 9月から古着の回収が再開された。リユースについては経済をまわす選択として検討していく。

◆勝川 ホームページに生ゴミ処理機の作り方を載せられても実際つくれない。助成制度復活などを検討すべき。

◇協働環境部長 880台普及できた。工作で作ってもらいたい。

◆勝川 紙類やプラスチックなどの分別を徹底させるなど徹底した事業系のゴミの減量化を

◇協働環境部長 混入がないかなどの検査も行なっている。減量化に努める。

3R(リデュース・リユース・リサイクル)の実践は生活を見直す意識改革。SDGs持続可能なまちづくりを進める視点で、市民と共にゴミの減量化(リデュース)に取り組んでほしい。

持続可能なまちというのならまずごみを出さないですむ仕組みをつくるとともに、ごみを出さない生活をめざす意識改革しかないと思います。